

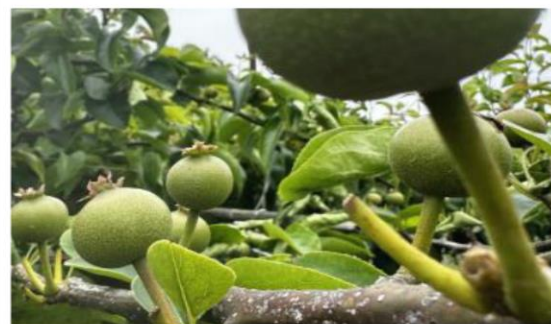
5月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

摘果

4月から取り組んでいた1度目の摘果が5月中旬に完了した。気温の上昇とともに果実が大きくなり、サイズや形の判別がしやすくなったことで、作業効率も徐々に向上した。また、木によって実の付き方や生育にばらつきがあるため、それぞれの木の状態に応じて摘果の量を調整するなど、柔軟な対応を意識した。



コンフューザーの設置

シンクイムシ（果実に潜り込んで被害を与える蛾の仲間の幼虫）対策として、交信攪乱剤「コンフューザー」を園内に設置した。コンフューザーは、害虫のオスがメスのフェロモンを見つけられないようにすることで交尾を阻害し、被害の発生を抑えることを目的としたものである。設置にあたっては、園内全体にバランスよく配置できるよう、間隔を意識しながら作業を行った。



活動を行った感想など

黒星病※の発生が増えてきているため、葉の裏なども注意深く観察し、見つけ次第速やかに除去・処理を行っている。今後も見落としがないよう、日々の見回りをしっかり行いたい。

摘果作業では、判断のスピードが上がってきた一方で、迷う場面では勢いで済ませそうになることもあった。特に微妙な実ほど丁寧に判断する姿勢を忘れないよう意識したい。

※黒星病とは
カビが原因で葉や茎に
黒い斑点が伝染する病気

今後の目標など

2度目以降の摘果作業は、既に不要な実の多くを落としてしまっているため、判断ミスがそのまま収穫量や売上に直結するタイミングに入ってくる。一つ一つの選択を慎重に行い、精度の高い作業を心がけたい。

